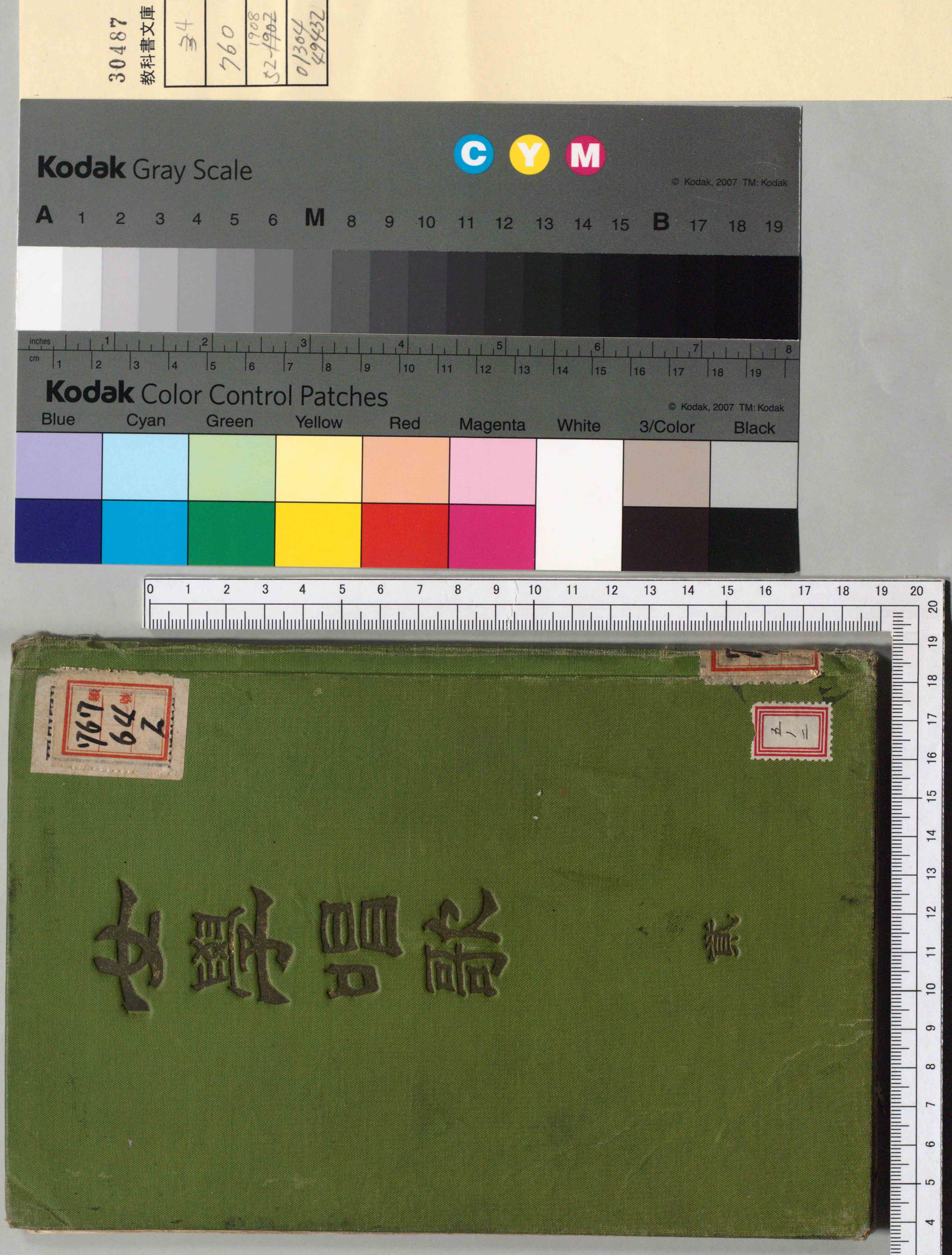
# 女學唱歌

貳

767類
64號
2

五ノ二

30487
教科書文庫
34
760
52-~~1902~~ 1908
01304
49432



中央図書館

広島大学図書
0130449432

# 女學唱歌

山田源一郎編（第貳集）

合資會社共益商社樂器店藏版

767
64
2

第4945號

鹿島縣
[illegible]
[illegible]
藏書之印

# 女學唱歌第二集

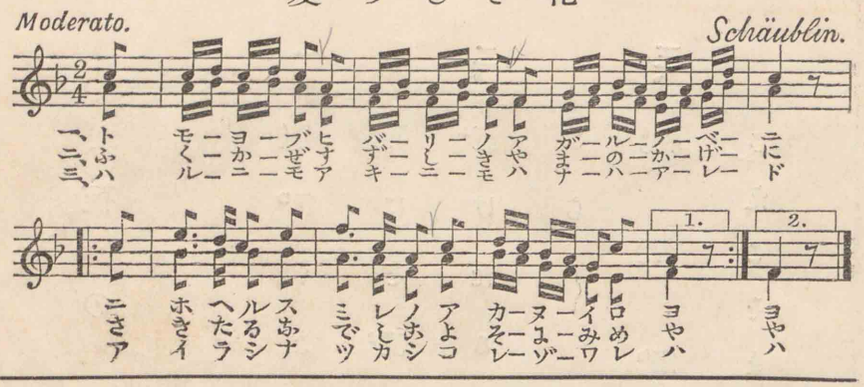
## 目次

一愛らしき花
一夜の歌
一閉校
一日出の富士
一夕の鐘
一春のゆふべ
一星の光
一おもだか
一やさしの山吹
一漁父
一夏の野景
一ふるさと
一門邊の小川
一早秋夕
一成業別友
一秋のあはれ
一なき父母
一秋の夕暮
一庭の菊
一感懷

縣第　号
音
部冊
消
相

○一琴彈く媼　一
一なき友　一
附　錄
練習課
音階　二
第二度音程　二
第三度音程　二
第四度音程　二
第五度音程　二
第六度音程　二
第七度音程　二
第八度音程　二
短音階　二
半音階　二
以上　二

# 愛らしき花




## ○愛らしき花

ショイブリン作曲
坂正臣作歌

一、友よぶ雲雀の、あがる野べに。
にほへるすみれの、あかぬ色よ。

二、ふく風涼しき、やまの陰に。
さきたる瞿麥、よそに見めや。

三、春にも秋にも、花はあれど。
あいらしなつかし、これぞ我は。

# ○夜の歌

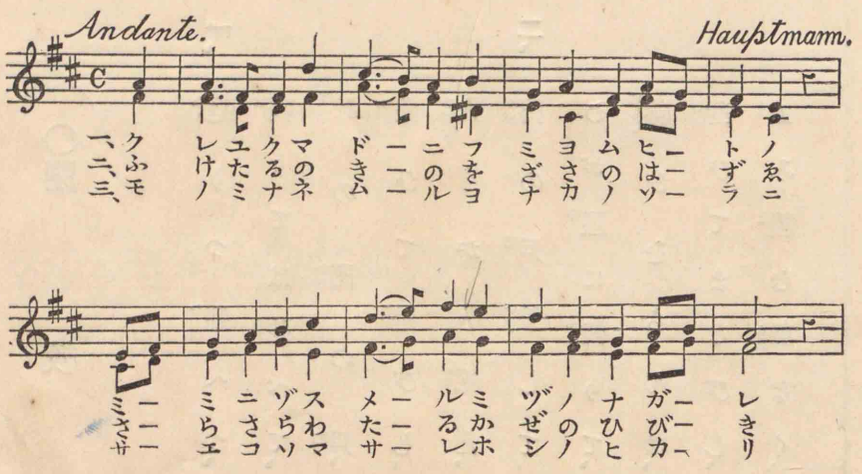
坂正臣作歌　ハウプトマン作曲

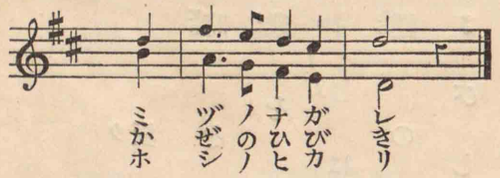
一、暮行くまどに、書讀む人の。
二、更けたる檐の、小竹の葉末。
三、物皆眠る、夜中の空に。

耳にぞ澄める、みづのながれ。
さら〳〵渡る、風のひゞき。
さえこそまされ、星のひかり。



# 夜の歌



# ○閉　校

ウェーベル作曲
坂正臣作歌

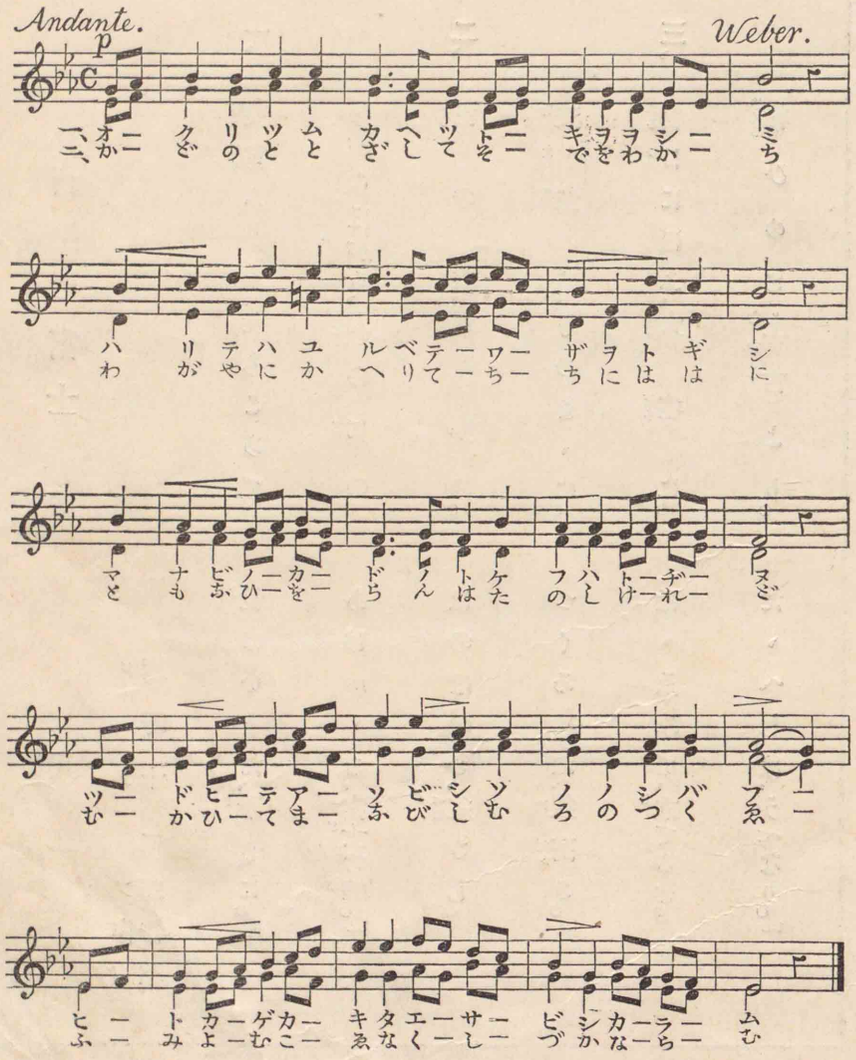
一、
送りつ迎へつ、時を惜み。
張りては弛べて、業を研ぎし。
學の、門の戸、今日は閉ぢぬ。

二、
集ひて遊びし、園の芝生。
人影かき絶え、さびしからむ。
門の戸鎖して、そでを分ち。

わが屋に歸りて、ちゝには、
伴ひをらんは、樂しけれど。
對ひてまなびし、室のつくゑ。
ふみ讀む聲なく、靜かならむ。



# 閉　校



# ○日出の富士

ロッフ作曲
旗野十一郎作歌

一、狭霧ふかく、たちこめて。　世はいまだ、暗きに。
ほがらほがら、天の戸の。　あけかゝる、富士の峰。」

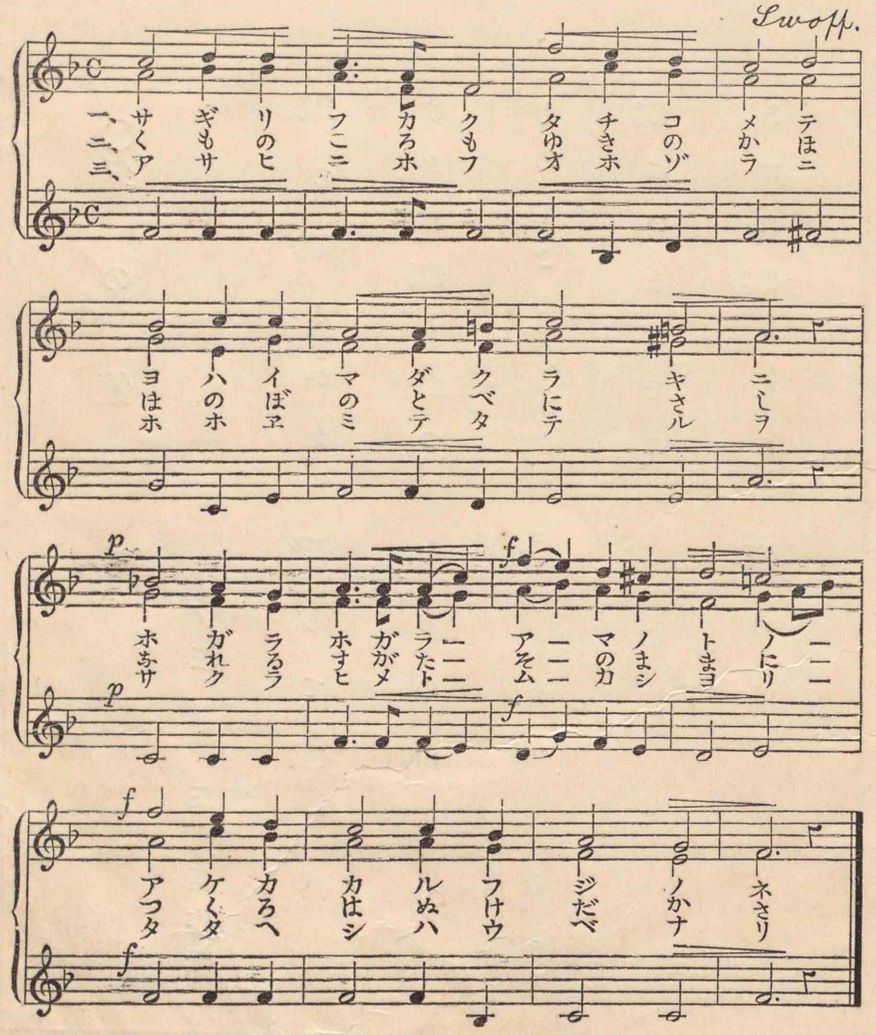
二、雲の衣、雪のかほ。　ほのぼのと、紅さし。
天然姿、そのまゝに。　つくろはぬ、氣高さ。」

三、朝日にほふ、大空に。　ほゝゑみて、立てるを。
櫻ひめと、上古より。　たゝへしは、うべなり。」



# 日出の富士

Swell.



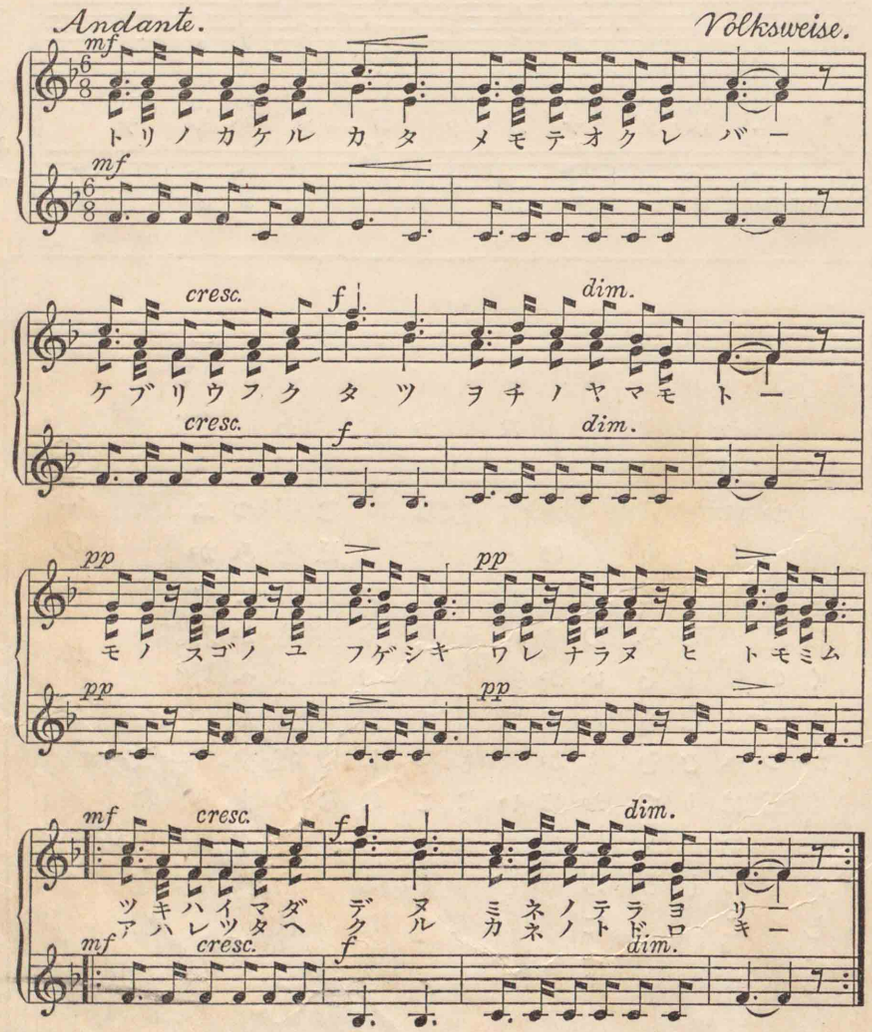
# ○夕の鐘

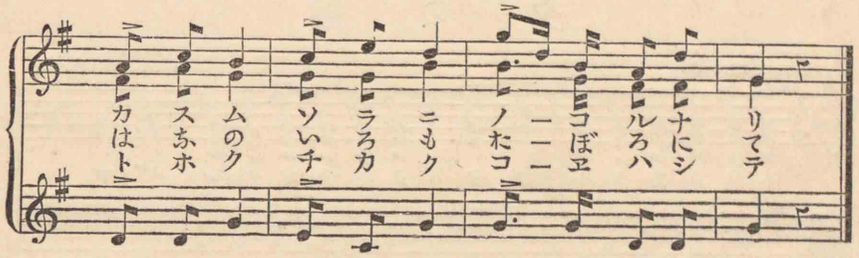
坂正臣作歌

鳥の翔るかた、
目もて送れば。
けぶり薄く立つ、
をちの山もと。
ものすごの夕景色、
我ならぬ人もみむ。
月はいまだでぬ、
峯の寺より。
あはれ傳へ來る、
鐘のとゞろき。



# 夕の鐘






○春のゆふべ

ヘッチ作曲
大和田建樹作歌

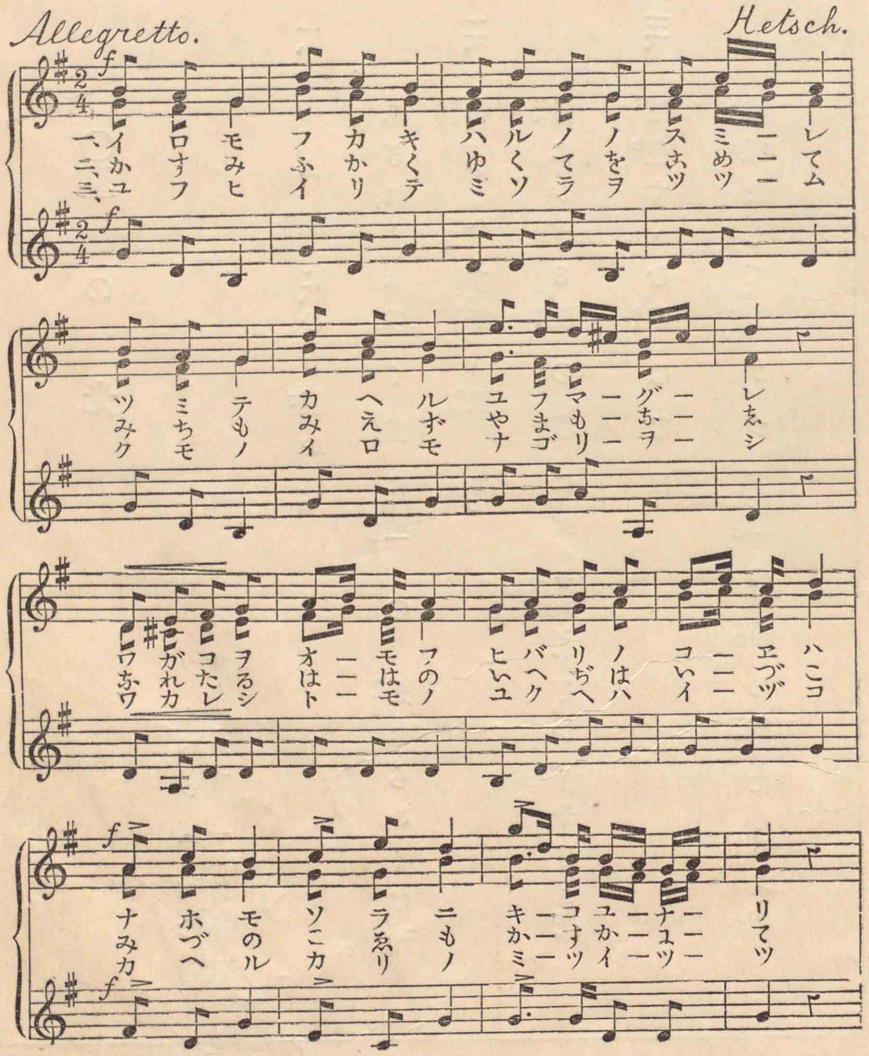
一、
色もふかき、春野のすみれ。
つみてかへる、夕まぐれ。
わが子をおもふ、雲雀のこゑは。
なほも空に、聞ゆなり。
かすむ空に、のこるなり。

二、
かすみ深く、ゆくてをこめて、
道もみえず、山もなし。
なれたる母の、家路はいづこ。
水の聲も、かすかにて。
花のいろも、おぼろにて。

三、
夕日入りて、みそらをつゝむ。
雲のいろも、なごりをし。
わかれし友の、ゆくへはいづこ。
かへる雁の、三つ五つ。
とほくちかく、聲はして。



# 春のゆふべ



# ○星の光

フイッシエル作曲
旗野十一郎作歌

一、ゆふ風に、ひき裂かれ。
ちぎれ〳〵、ゆく雲に。星の光、きらめくは。』

二、袖かへす、舞姫の。
妙にかざる、腕の環に。ダイヤモンドぞ、かゞやける。』

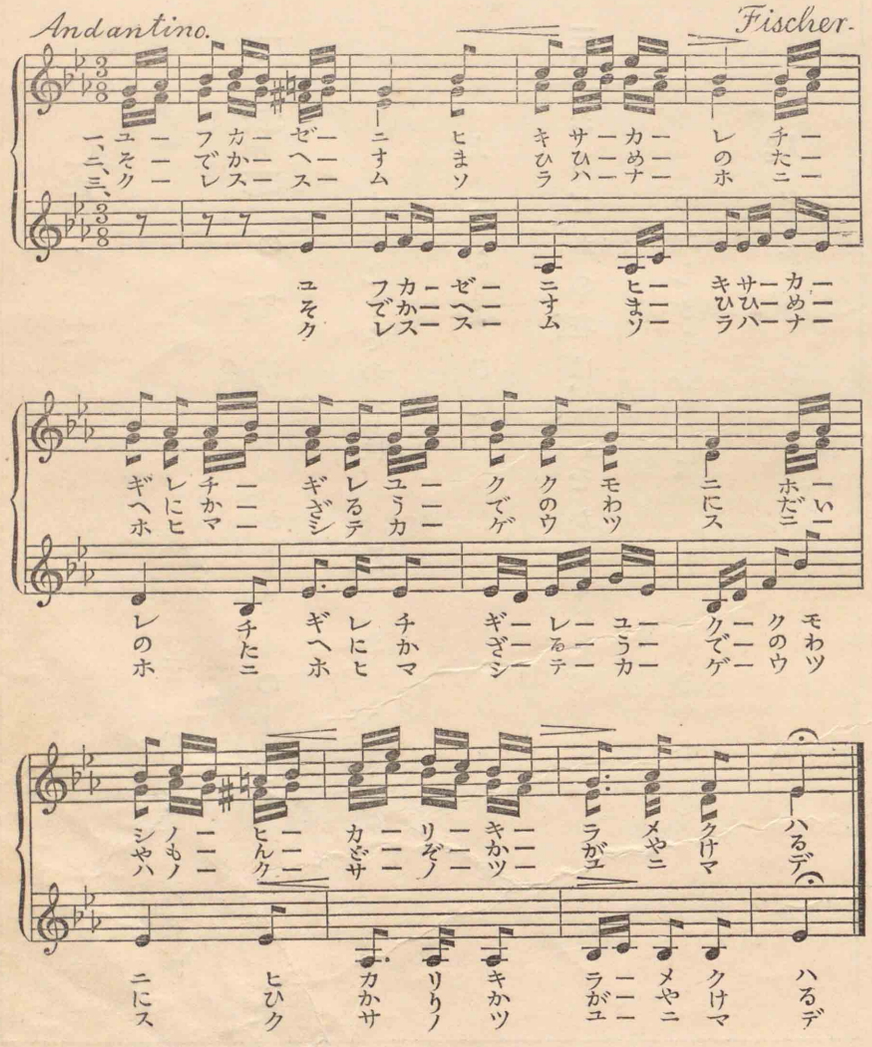
三、暗色す、む、空はなほ。
暁氣まして、影うつす。庭の草の、露にまで。』



# 星の光

Andantino.

Fischer.



## ○おもだか

シルヘル作曲
三輪義方作歌

一、澤瀉の花は、をかしきものよ。
すゞしきその香は、清き心の。

二、人にかよひて。
ゆかしきその名に、たかき心の。

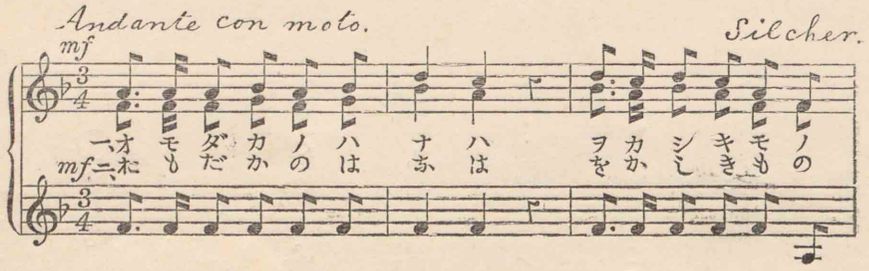
三、おもだかの花は、をかしきものよ。
人ぞおぼゆる。



## おもだか

Andante con moto.

Silcher.



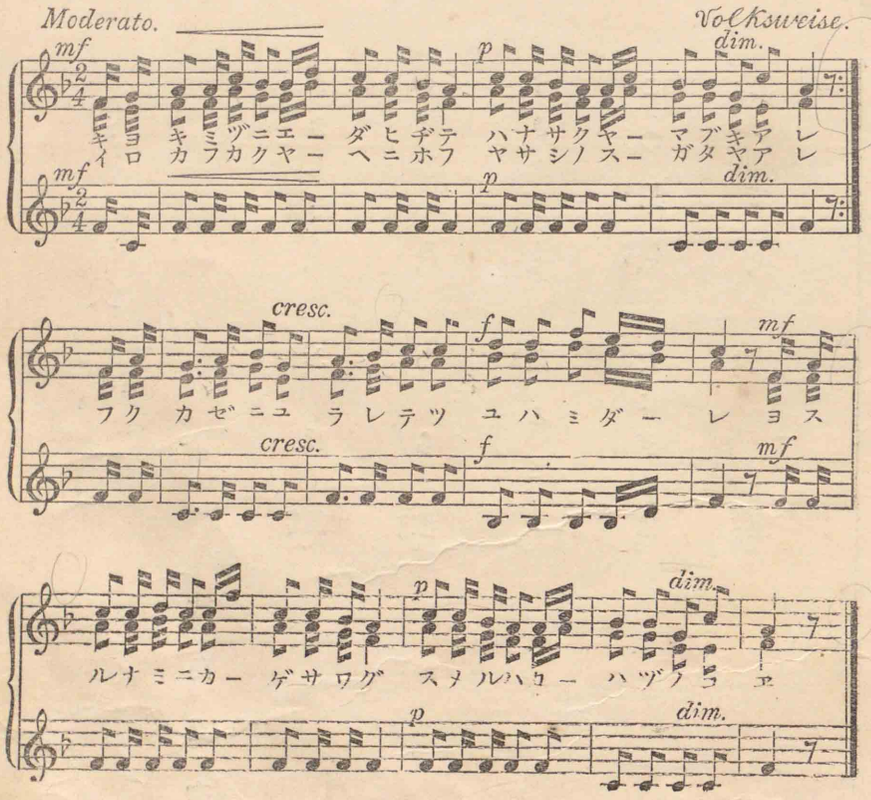
## ○やさしの山吹

三輪義方作歌

きよき水に、枝ひぢて。　花さく、やまぶき、あれ。
色香ふかく、八重匂ふ。　やさしの、すがたや、あれ。
ふく風に、ゆられて、露はみだれ。
よする浪に、影さわぐ。
すめるは、かはづの聲。」



## やさしの山吹



# ○漁　父

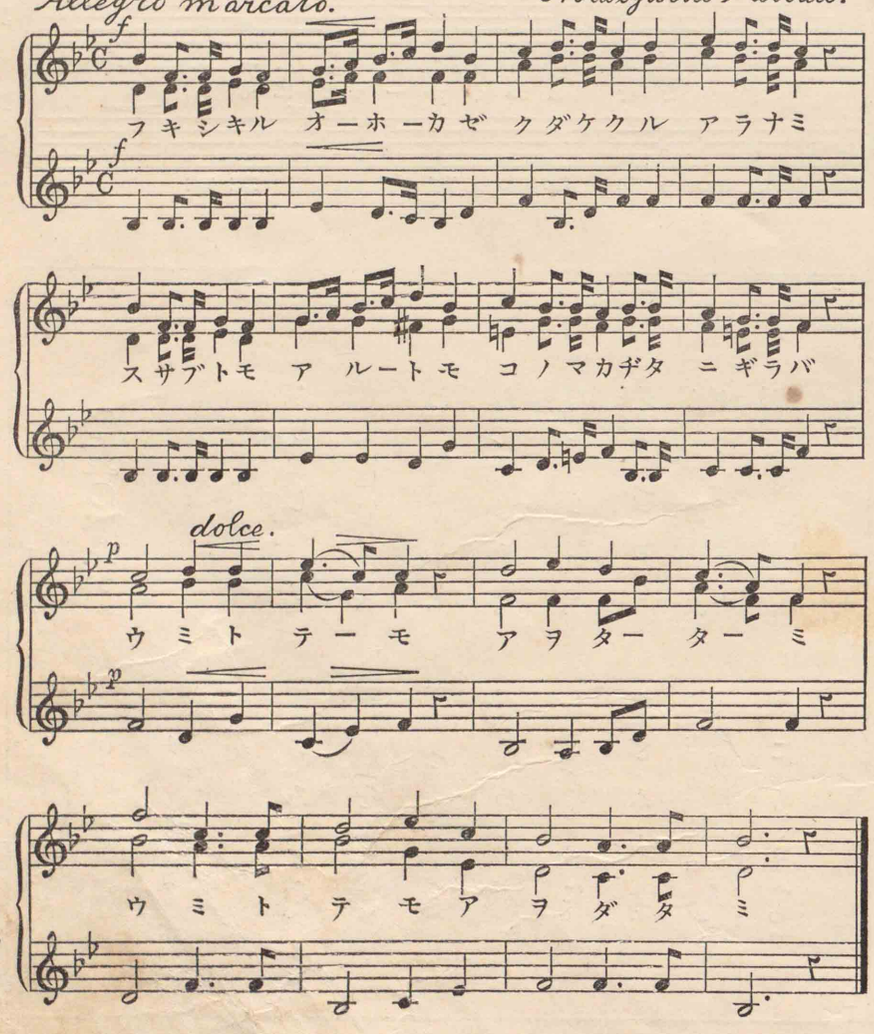
ふきしきる、　おほ　風。
くだけくる、　あら　浪。
すさぶとも、　荒るとも。
この眞楫、　たにぎらば。
海とても、　青疊。

武島又次郎作歌



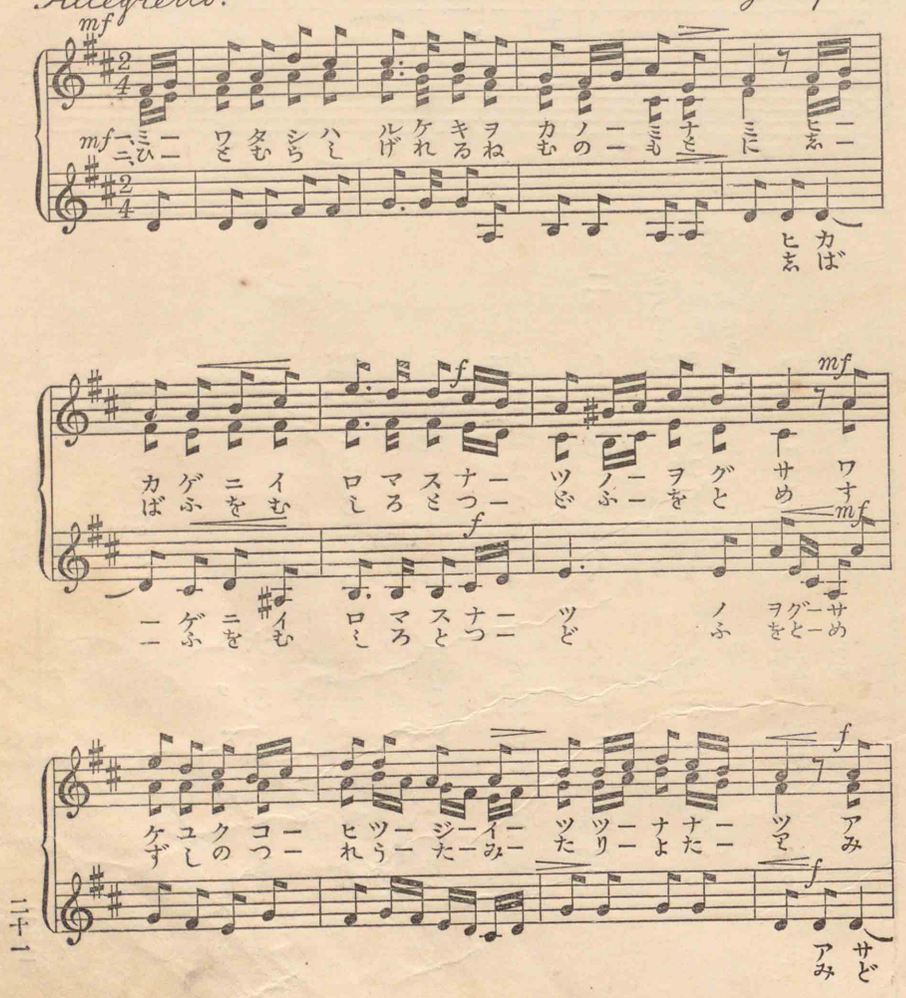
# 漁　父

Allegro marcato.　　Norwegische Melodie.

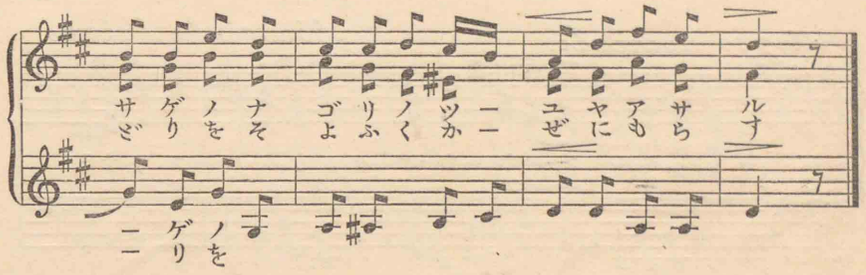


## 夏の野景

*Allegretto.* *Greef.*





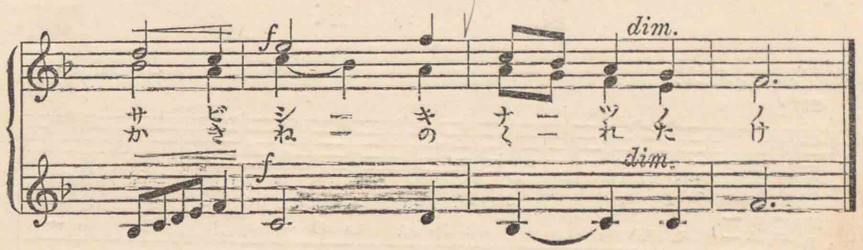

○夏の野景

## ○夏の野景

グリーフ作曲
旗野十一郎作歌

一、みわたし遙けき、岡のみなみ。
日かげにいろます、夏のをぐさ。
わけゆく小羊、五つ七つ。
あさげのなごりの、露やあさる。』

二、ひとむら繁れる、合歡のもとに。
芝生をむしろと、つどふ少女。
涼しの伴歌、三人四人。
綠をそよ吹く、風にもらす。』




○ふるさと

## ○ふるさと

モツアルト作曲
大和田建樹作歌

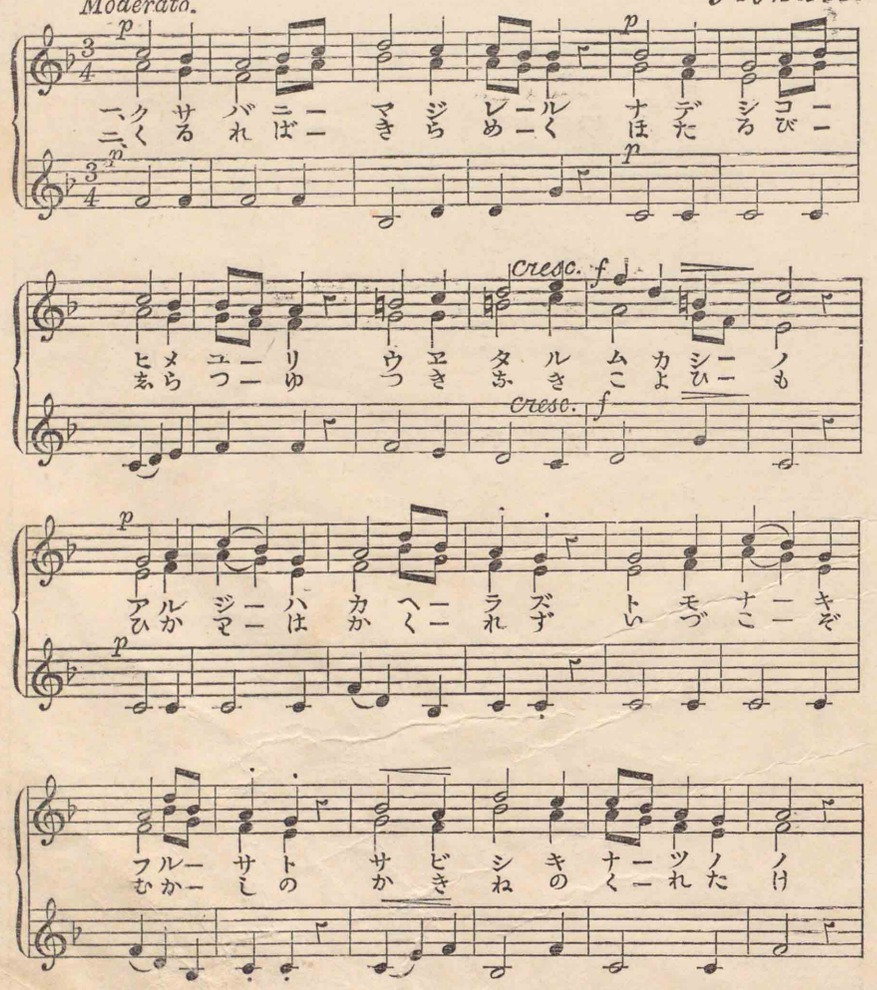
一
草葉にまじれる、撫子ひめゆり。
うゑたる昔の、あるじはかへらず。
友なきふるさと、さびしき夏の野。

二、
くるればきらめく、ほたるび白露。
月なきこよひも、光はかくれず。
いづこぞ昔の、垣根の呉竹。



## ふるさと

Moderato. Mozart.



## ○門邊の小川

武島又次郎作歌

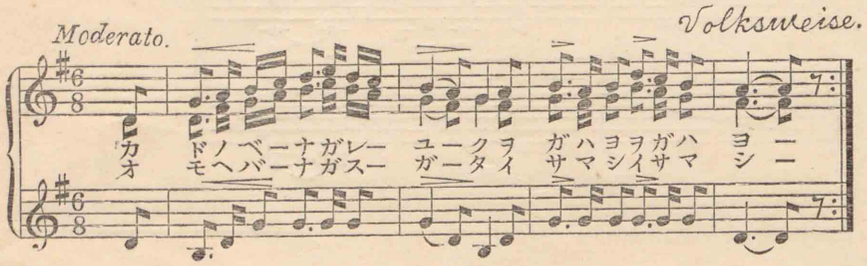
門のべながれゆく、小川よ、小川よ。
思へば汝がすがた、いさまし、いさまし。
たゆまず止らず、年と、ともに。
進める汝が心、たふとし、たふとし。』

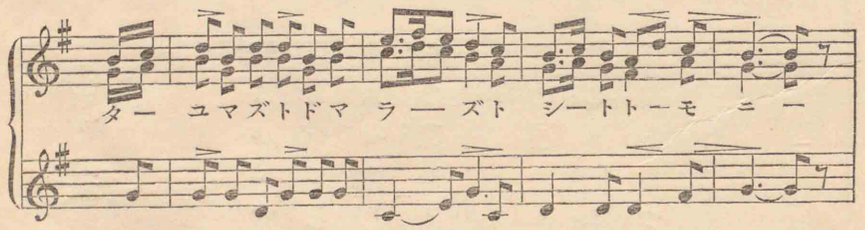


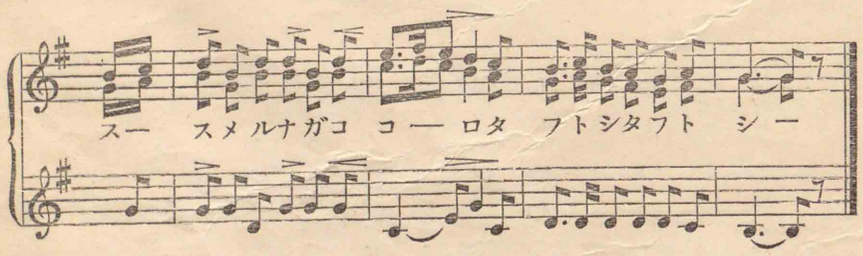
## 門邊の小川

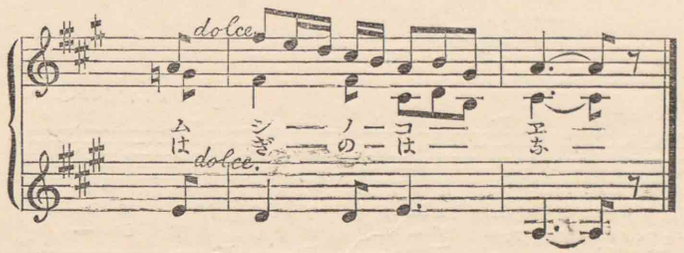
Volksweise.

Moderato.






## ○早秋夕

中村秋香作歌

一、

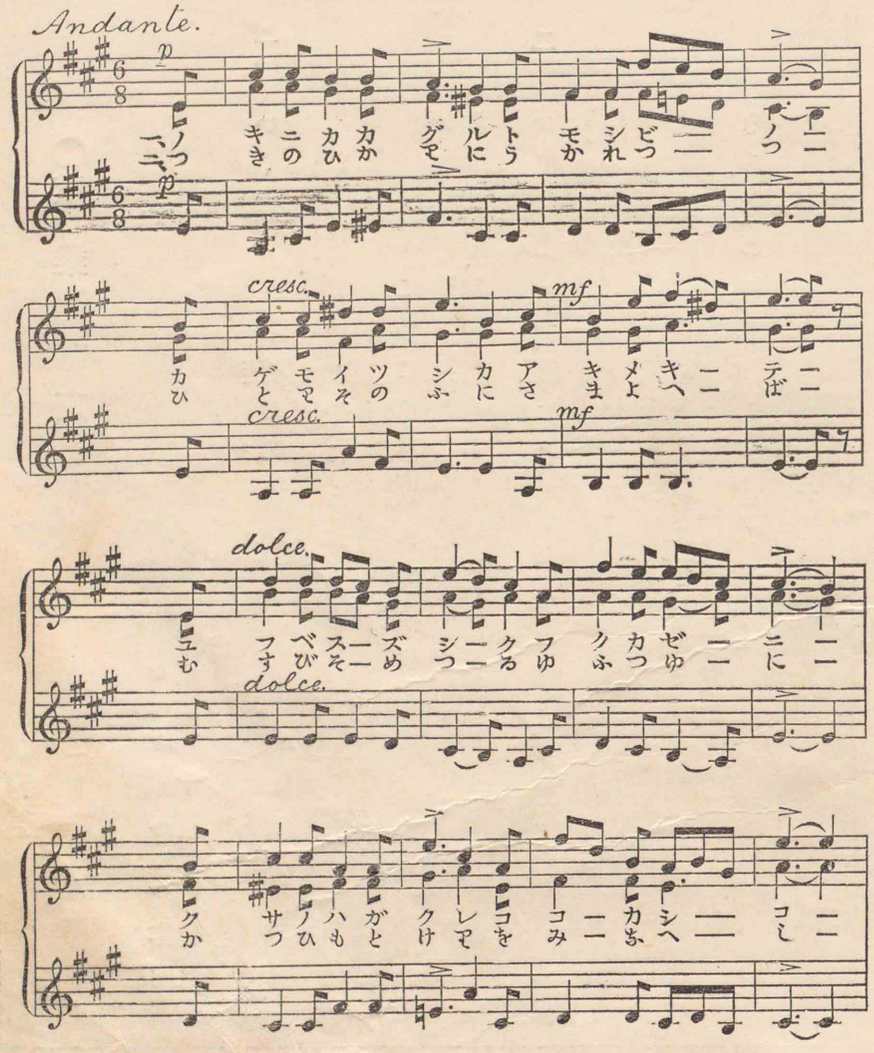
軒にかゝぐる、ともしびの。
影もいつしか、秋めきて。
ゆふべ涼しく、吹く風に。
草の葉がくれ、こゝかしこ。
かつひもとけり、蟲の聲。』

二、

月のひかりに、うかれつゝ。
ひとり園生に、さまよへば。
結びそめつる、ゆふつゆに。
袂をみなへし。
はぎのはな。』



## 早秋夕



# ○成業別友

シル ヘル作曲
旗野十一郎作歌

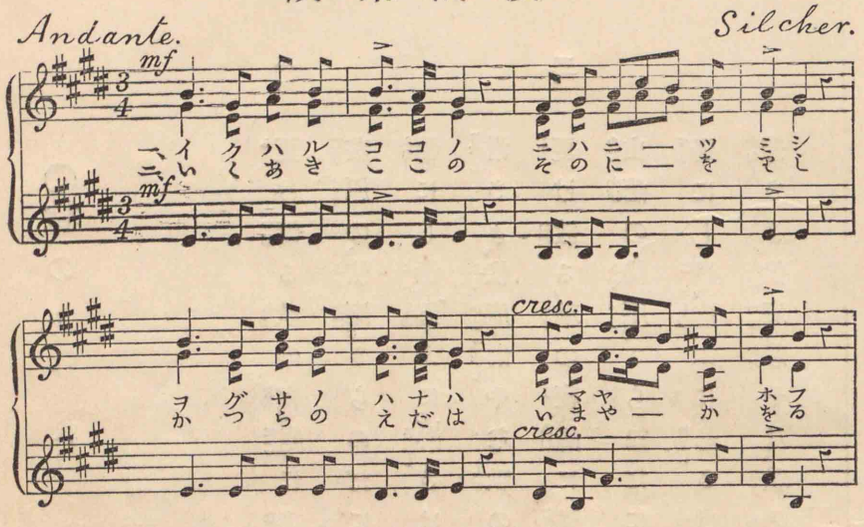
一、いく春こゝの、庭に摘みし。
小草の花は、いまやにほふ。
アゝこのにほひ、別れて後に。
君も吾も、眞實著し。』

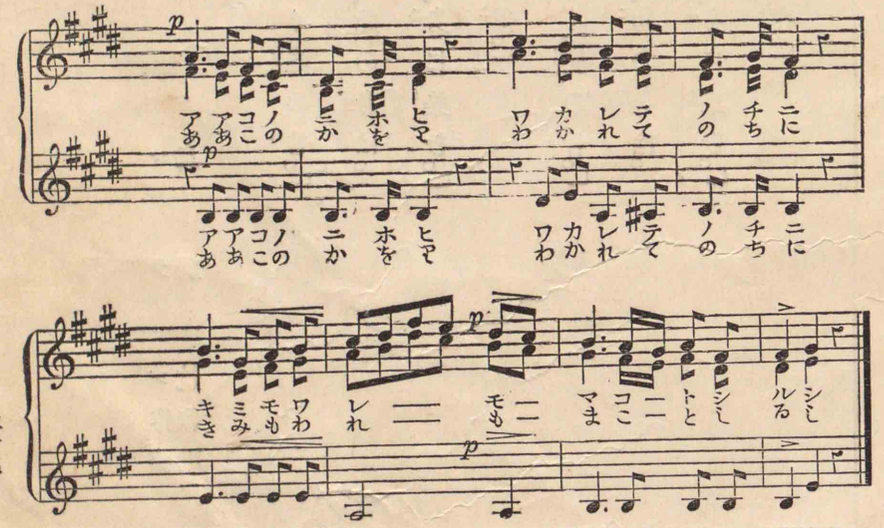
二、いく秋こゝの、園に折りし。
桂の枝は、いまやかをる。
アゝこのかをり、別れて後に。
きみもわれも、まことしるし。』



# 成業別友

Andante. mf Silcher.



# ○秋のあはれ

マラン作曲
鳥居忱作歌

一、更け渡る秋の夜。庭に鳴く、蟲の音。」
萩原の、伏庵。さらぬだに、此の身は。
舊にし世、忍ぶに。淋さは、身に染む。」
淋さよ、伏庵。淋やな、秋の夜。』

二、更け渡る、秋の夜。峰に鳴く、鹿の音。」
山蔭の、伏庵。さらぬだに、此の身は。
過にし世、忍ぶに。悲さは、身に染む。」
悲さよ、伏庵。悲やな、秋の夜。』



## 秋のあはれ

Andante. Malan.

一、フハふや ケギけま ワハわか タラたげ ルノるの アフあふ キセきせ ノイのい ヨホよほ ニサみさ ハラねら ニヌにぬ ナダあだ クニくに

二、ムコむこ シノかの ノミのみ ネハねは フす リぎ ニに シし ヨよ シむ ー一 ノの ブぶ ニに

cresc.

サか ビあ シし サさ ハは ー一 ミみ ニに シし ムむ サか ビあ シし サさ ヨよ

cresc.

フふ セせ イい ホほ サか ビあ シし ヤや ナあ アあ キき ノの ー一 ヨよ

cresc.

# ○なき父母

ベートーヴェン作曲
大和田建樹作歌

一、なきわが父上、御影はいづくぞ。
　なきわが母上、御聲はいづくぞ。
　花さき鳥なき、春また來りぬ。
　こひしや、昔の、かへらぬ其夢。

二、父とわがめでし、垣根の糸萩。
　母とわがきゝし、夕べの蟲の音。
　たのしと思ひし、夢路の昔を。
　今なほこふるか、草葉の白露。



## なき父母

Adagio. Beethoven.

一、ナキワガチチ―ウヘミカゲハイ
　ナキワガハハ―ウヘミコヱハイ
二、ちとわがめ―でゑかきねのい
　はとわがき―ぬゆふべのむ

cres-cen-do.

ヅク―ゾハナーサキトリーナキハ
ヅク―ゾたのーしとたもーひしゆ
とは―ぎね
しの―ね

cres-cen-do.

cresc.

ルマーターキターリーヌコヒーシヤムこ
めぢーのーむかーゑーをいまーかほこ

cresc.

カーシノカヘラーヌーソノーユーメゆ
ふーるかくさばーのーゑらーつーゆ

## ○秋の夕暮

武島又次郎作歌

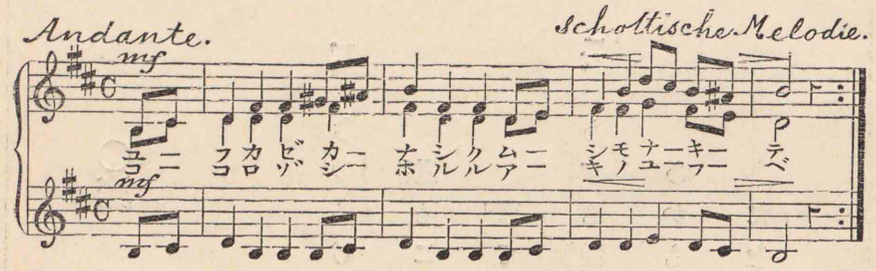
夕風かなしく、蟲もなきて。
こゝろぞしほる、秋のゆふべ。
わが身のうへのみ、かくやと思ふに。
尾花が袖にも、露はおきぬ。

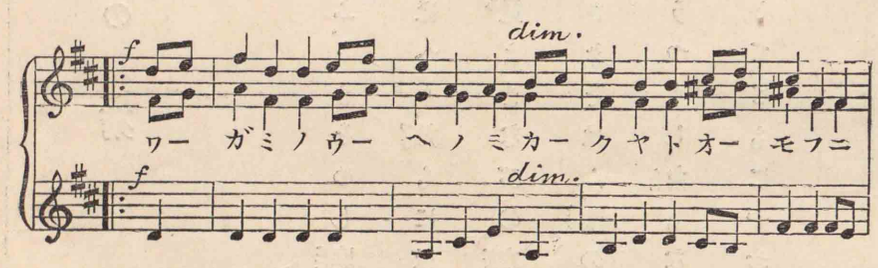


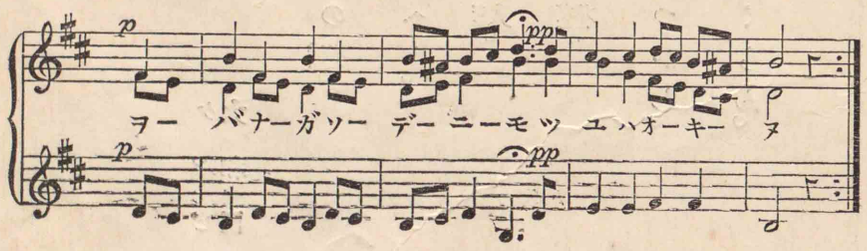
## 秋の夕暮

Andante. mf

Schottische Melodie.



# ○庭の菊

ケルビニー作曲
大和田建樹作歌

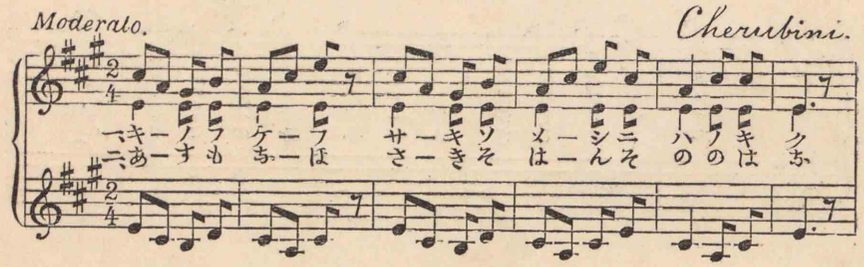
一、きのふけふ、さきそめし、庭の菊。
露もにほへり、月もにほへり。
來て見よ、まなびの友人。

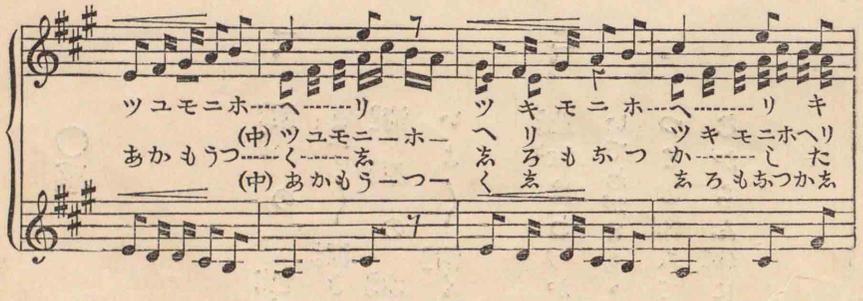
二、あすも猶、さきそはん、園の花。
あかもうつくし、白もなつかし。
たをりて、ともにやおくらん。

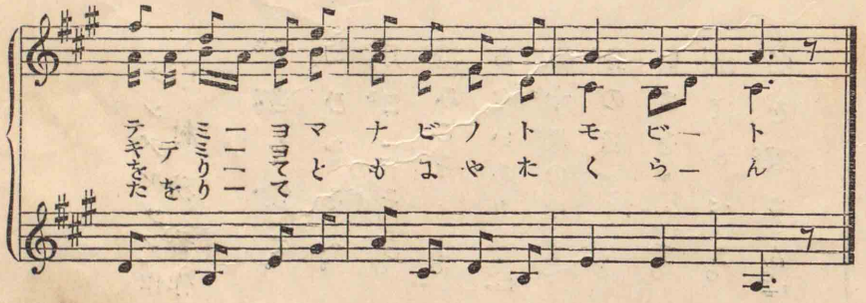


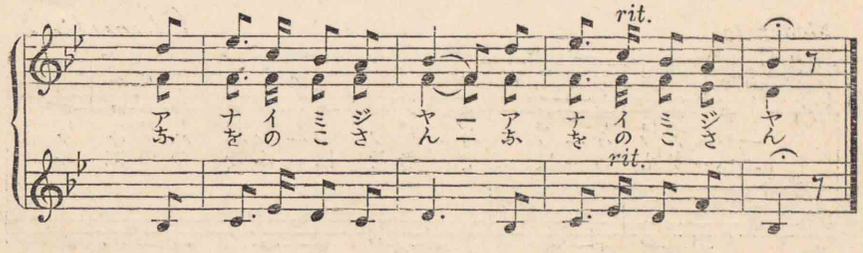
# 庭の菊

Moderato. Cherubini.






## ○感　懐

メンデルソン作曲
中村秋香作歌

一、

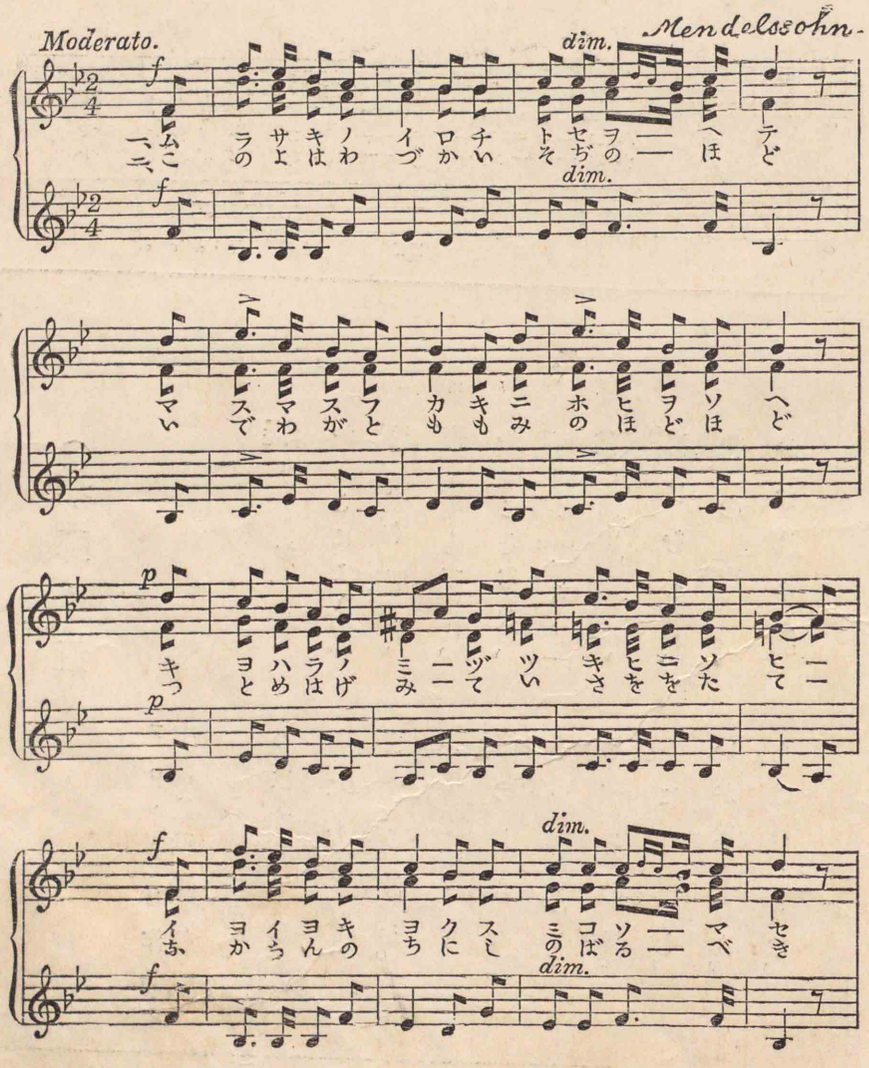
紫の色、千歳を經て、
ます〳〵深き、匂ひをそへ、
清原の水、月日にそひ。
いよ〳〵清く、澄みこそませ。

二、

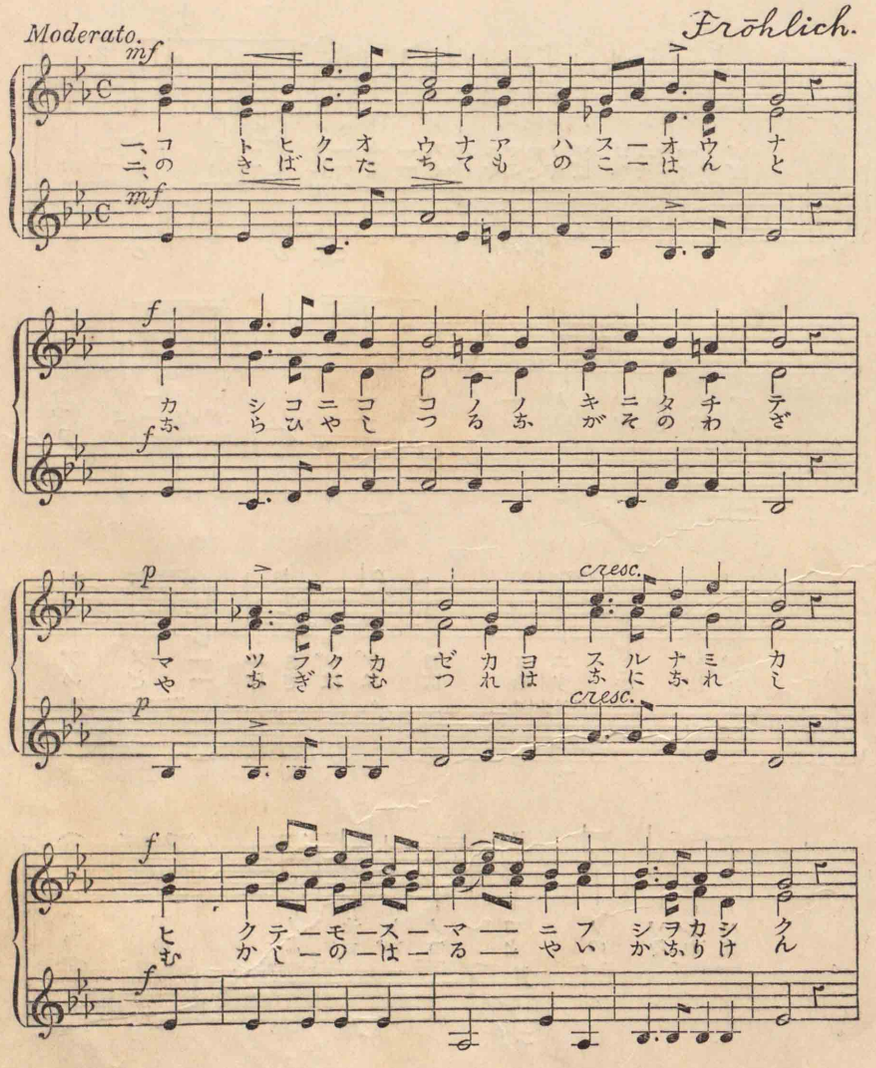
此世はわづか、あないみじや。』
いでわがともゝ、五十歳のほど。
つとめ勵みて、身のほどゞ〳〵。
なからん後に、いさを、立て。
忍ばるべき。
名を殘さん。』



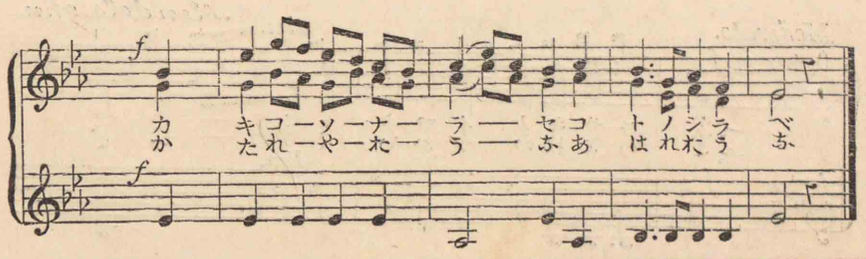
## 感　懐



## 琴彈く媼





○琴彈く媼

## ○琴彈く媼

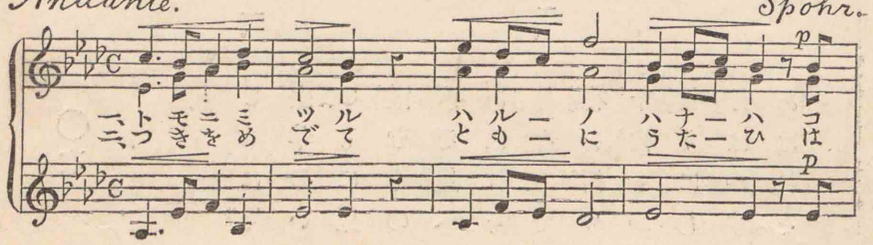
フローリッヒ作曲
中村秋香作歌

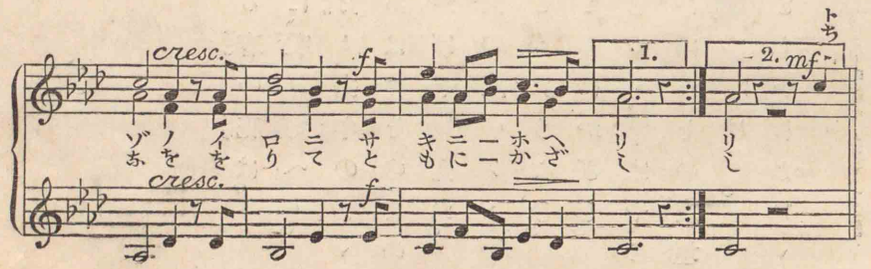
一、
琴ひくおうな、あはすおうな。
かしこにこゝの、軒にたちて。
松吹く風か、よする波か。
彈く手もすまに、ふしをかしく。
かきこそならせ、琴のしらべ。』

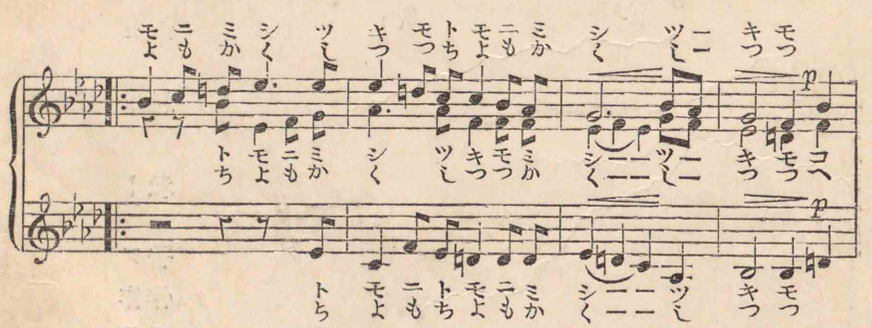
二、
軒端に立ちて、もの乞はんと。
習ひやしつる、ながその業。
柳にむつれ、花になれし。
昔の春や、いかなりけん。
かたれや媼、あはれおうな。』

# な　き　友

Andante.　　Spohr.



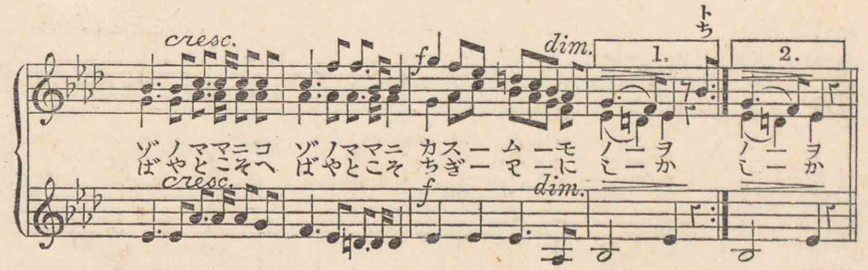



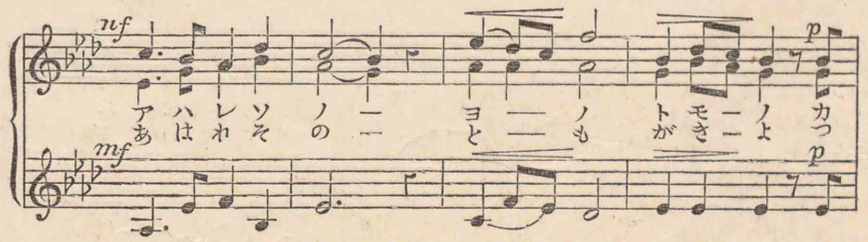



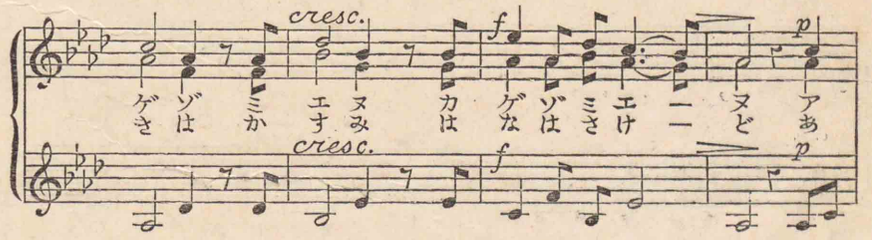


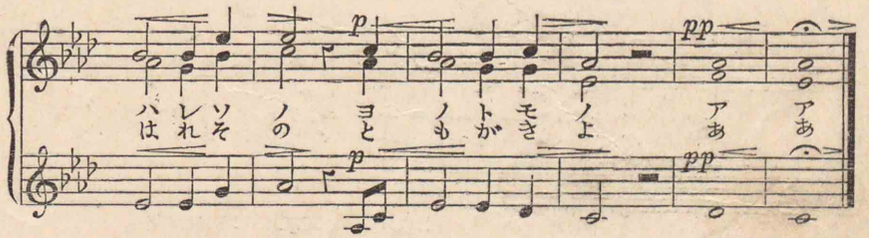

（なき友つゞき）





# 附

# 錄

## 練習課



## ○なき友

スポーツア作曲
中村秋香作歌

一、

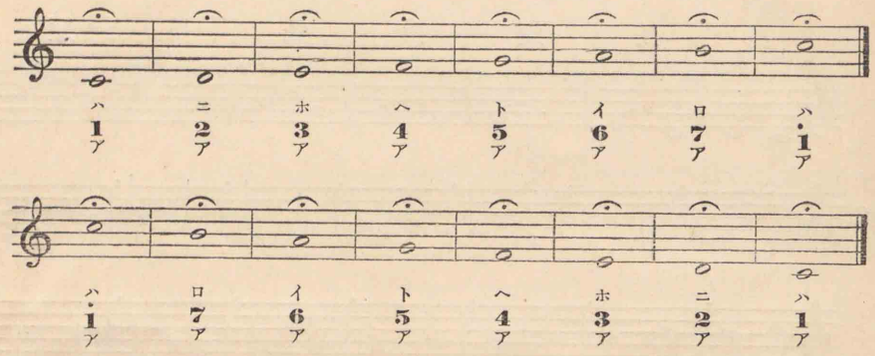
ともに見つる、春の花は。
去年のいろに、咲き匂へり。
ともに見し月も、去年のまゝに、
霞むものを。あはれその、よの友の。
影ぞ見へぬ、かげぞ見えぬ。
あはれその、世の友のっアゝ。』

二、

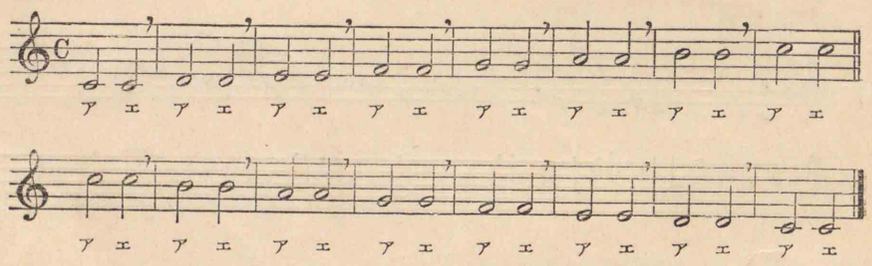
月をめで、ともにうたひ。
花を折りて、ともにかざし。
千代もかくしつゝ、經ばやとこそ、
契りにしか。あはれその友垣よ。
月はかすみ、花は咲けど。
あはれその、ともがきよ。アゝ。』

# 音　階

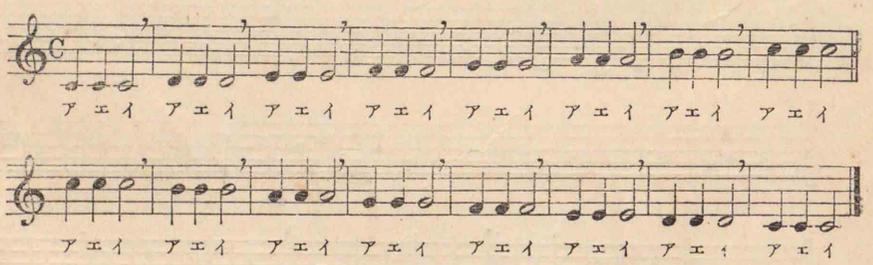
1.


ハ ニ ホ ヘ ト イ ロ ハ
1ア 2ア 3ア 4ア 5ア 6ア 7ア 1ア
ハ ロ イ ト ヘ ホ ニ ハ
1ア 7ア 6ア 5ア 4ア 3ア 2ア 1ア

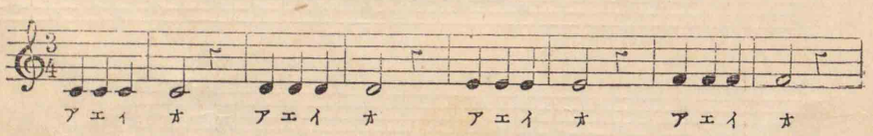
2.


ア エ ア エ ア エ ア エ ア エ ア エ ア エ ア エ
ア エ ア エ ア エ ア エ ア エ ア エ ア エ ア エ

3.

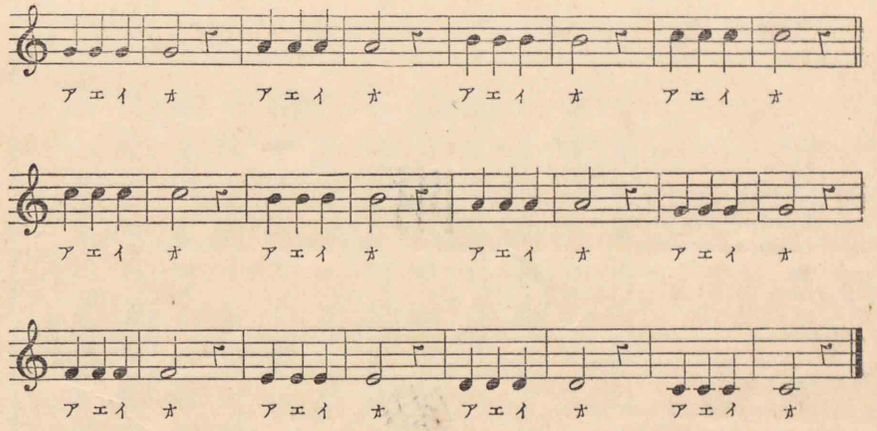

ア エ イ ア エ イ ア エ イ ア エ イ ア エ イ ア エ イ ア エ イ ア エ イ
ア エ イ ア エ イ ア エ イ ア エ イ ア エ イ ア エ イ ア エ イ ア エ イ

4.

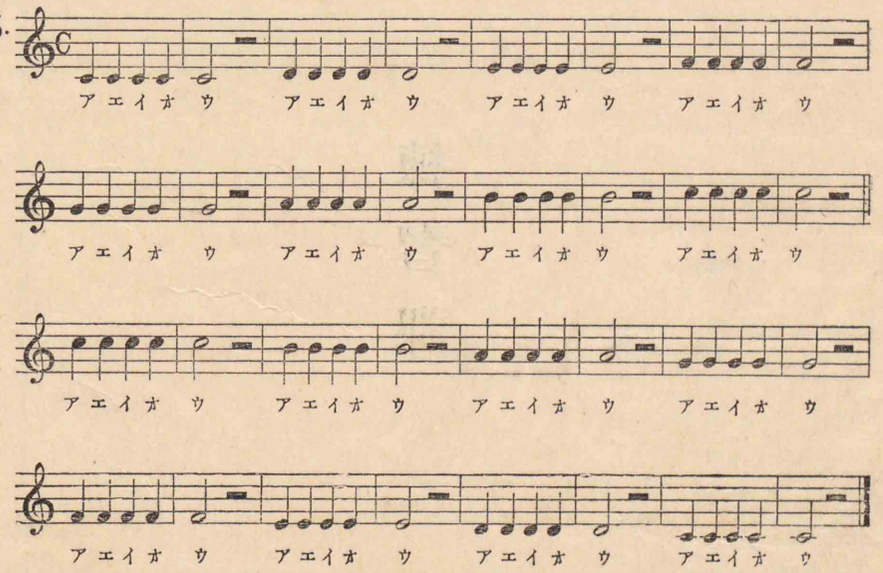

ア エ イ オ ア エ イ オ ア エ イ オ ア エ イ オ



つゞき

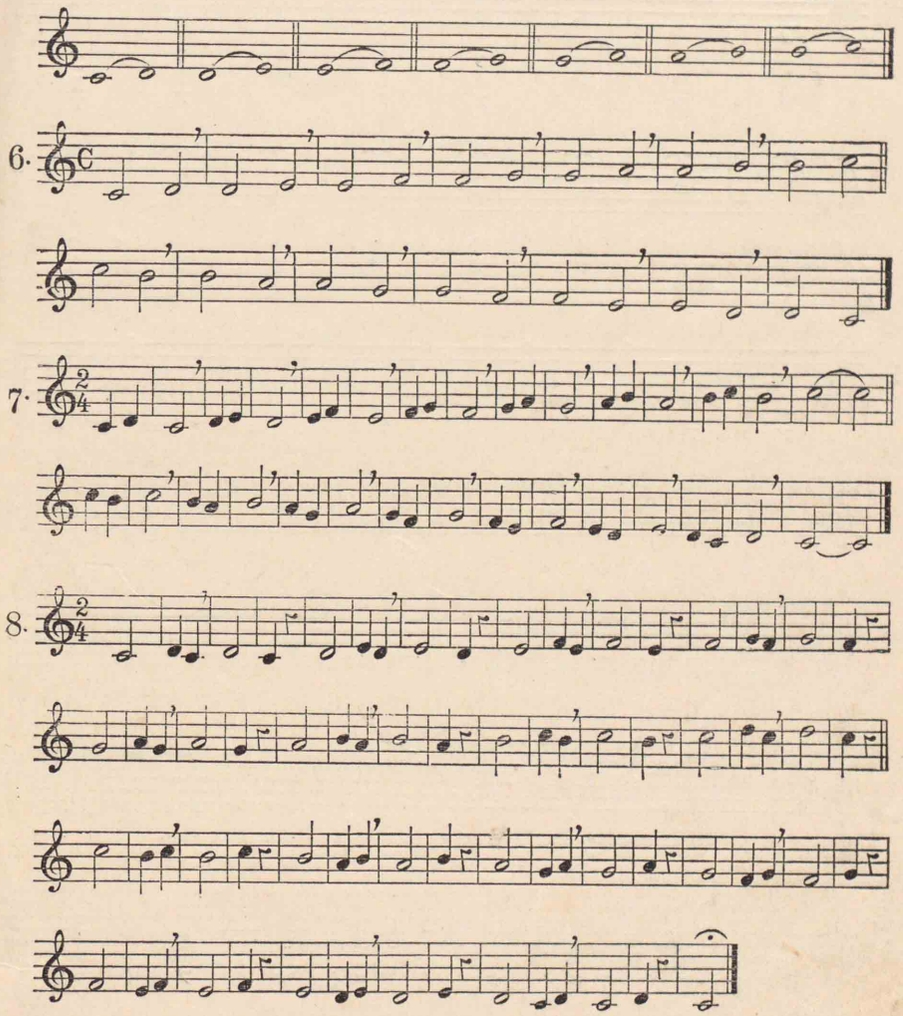

ア エ イ オ ア エ イ オ ア エ イ オ ア エ イ オ
ア エ イ オ ア エ イ オ ア エ イ オ ア エ イ オ
ア エ イ オ ア エ イ オ ア エ イ オ ア エ イ オ

5.


ア エ イ オ ウ ア エ イ オ ウ ア エ イ オ ウ ア エ イ オ ウ
ア エ イ オ ウ ア エ イ オ ウ ア エ イ オ ウ ア エ イ オ ウ
ア エ イ オ ウ ア エ イ オ ウ ア エ イ オ ウ ア エ イ オ ウ
ア エ イ オ ウ ア エ イ オ ウ ア エ イ オ ウ ア エ イ オ ウ

## 第二度音程

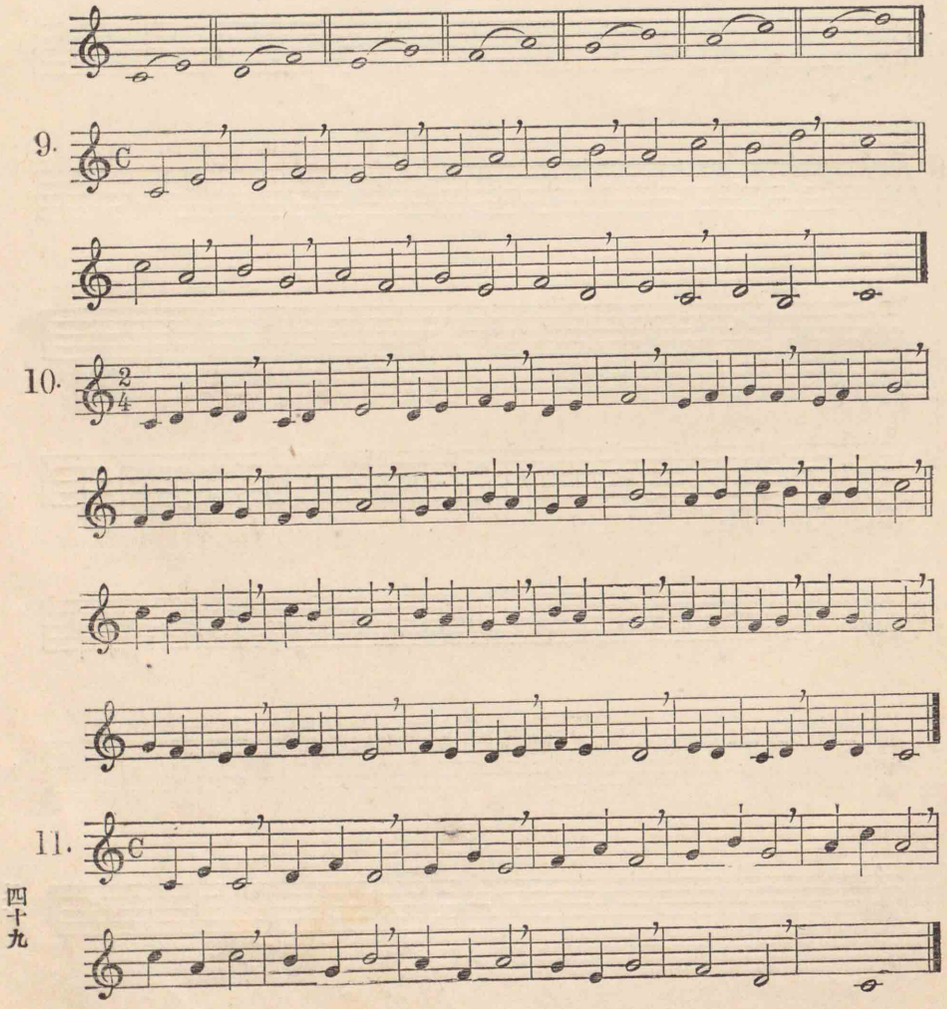
長　長　短　長　長　長　短





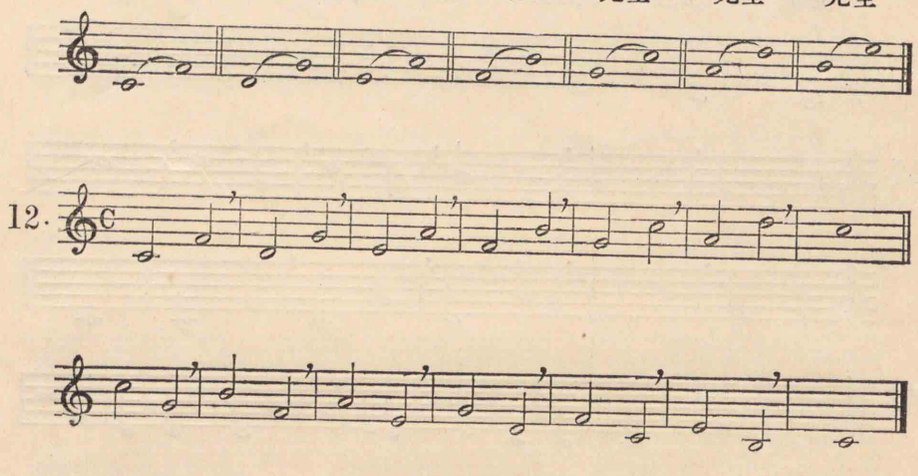

## 第三度音程

長　短　短　長　長　短　短

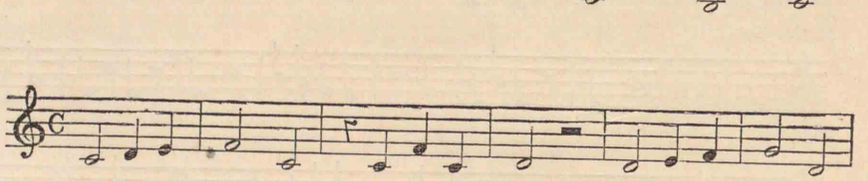


## 第四度音程

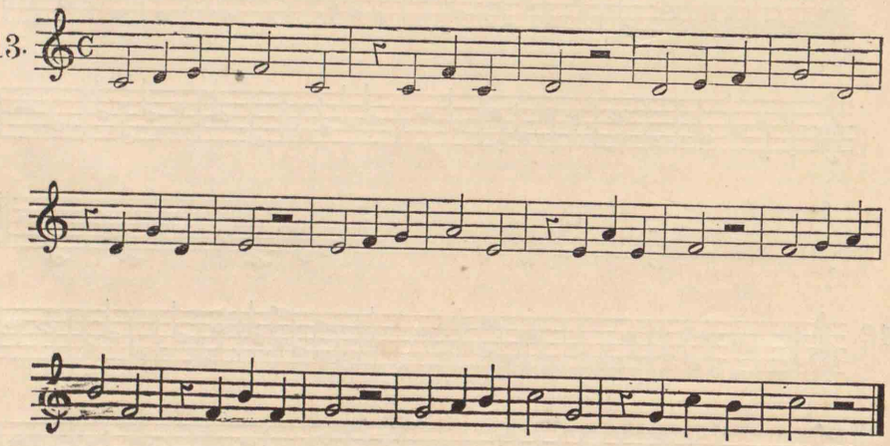
完全　完全　完全　増　完全　完全　完全



12.



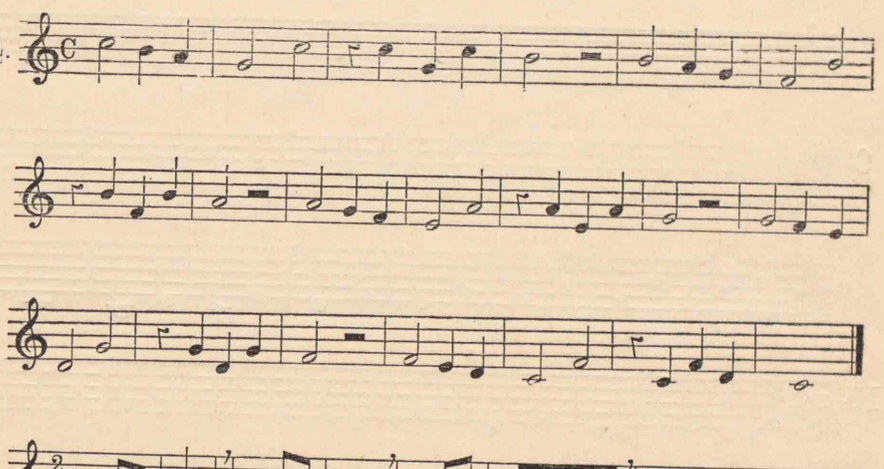
13.



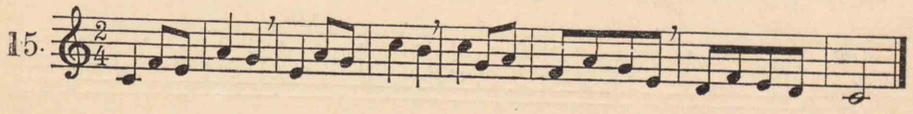


## 第四度音程つゞき

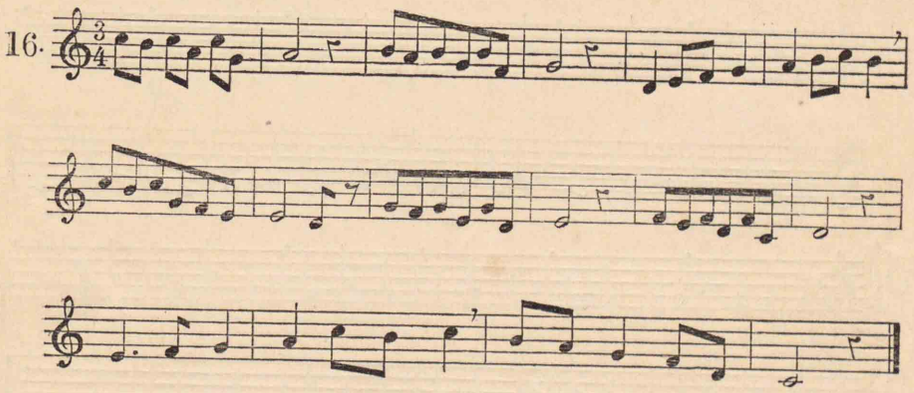
14.



15.

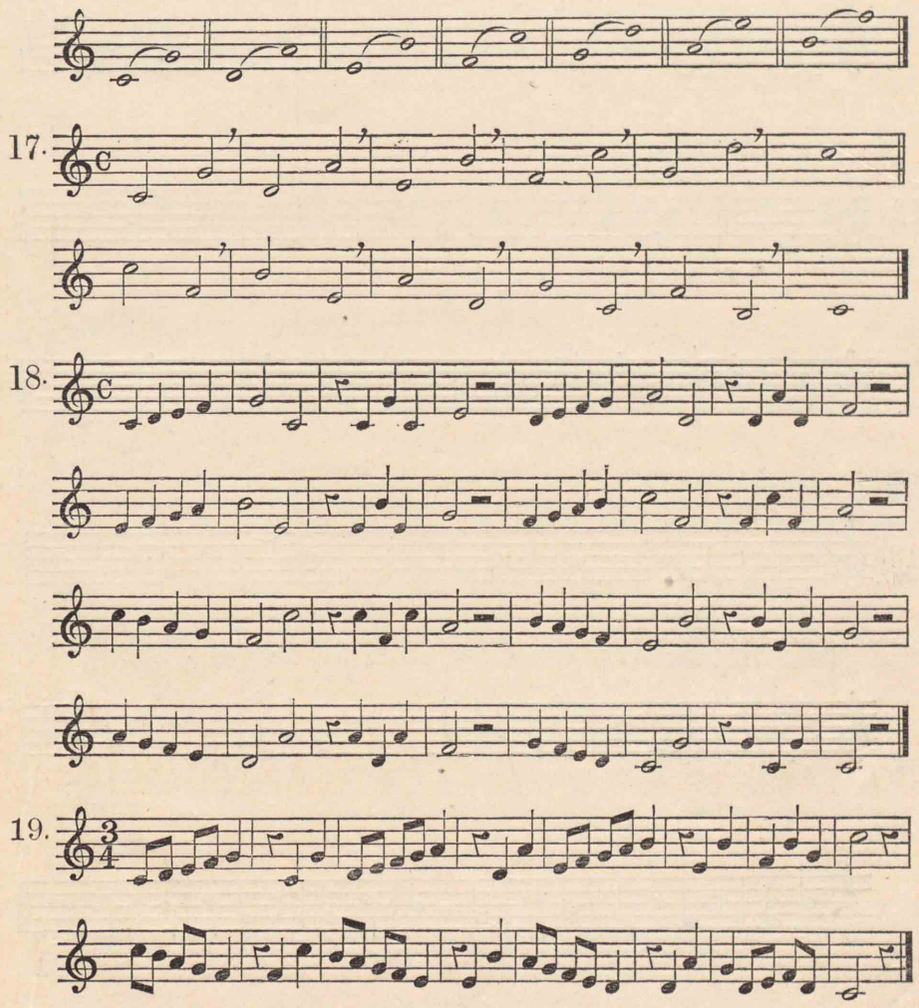


16.



## 第五度音程

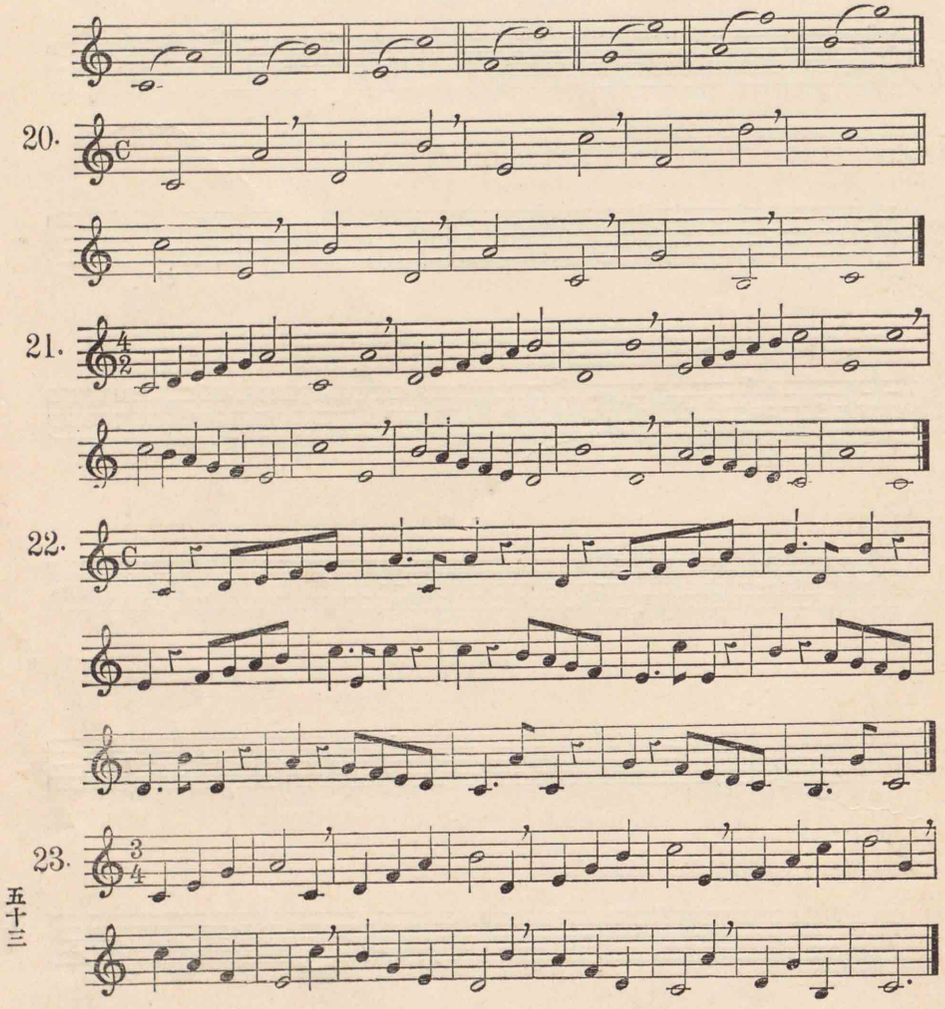
完全　完全　完全　完全　完全　全完　減(不完全)





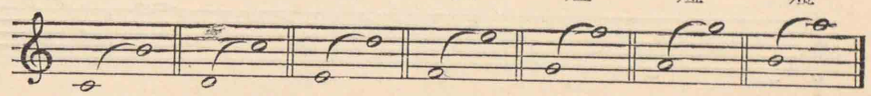

## 第六度音程

長　長　短　長　長　短　短

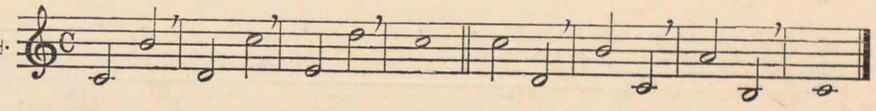


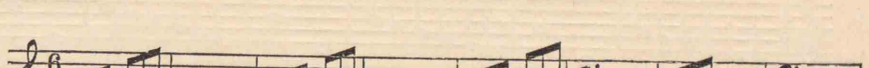
## 第七度音程

長　短　短　長　短　短　短

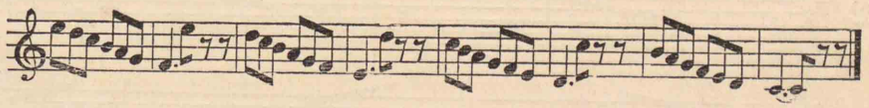


24.

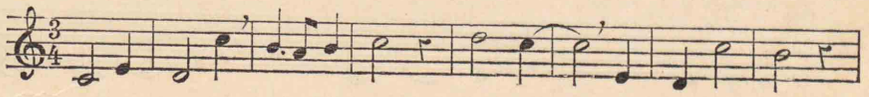


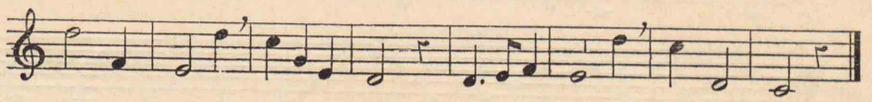


25.



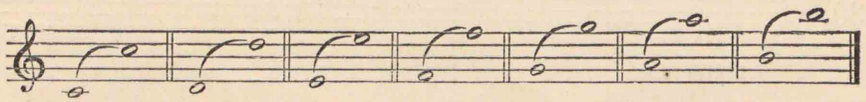
26.



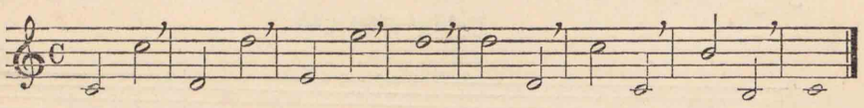


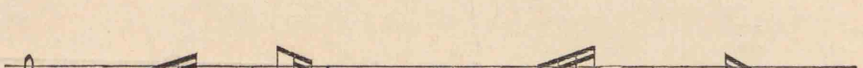


## 第八度音程

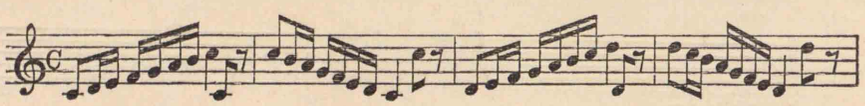


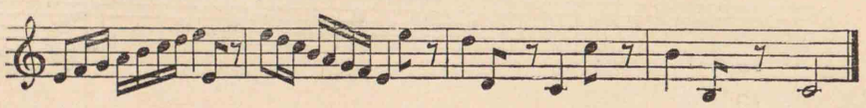
27.



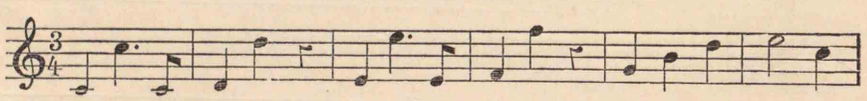


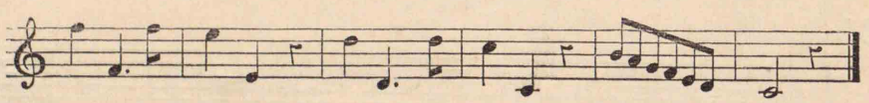
28.





29.

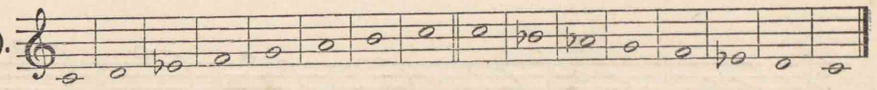




## 短　音　階

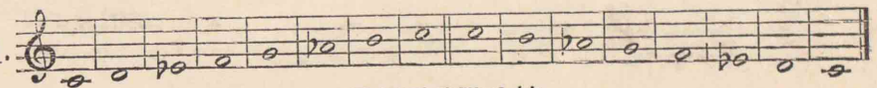
旋律的

30.



和聲的

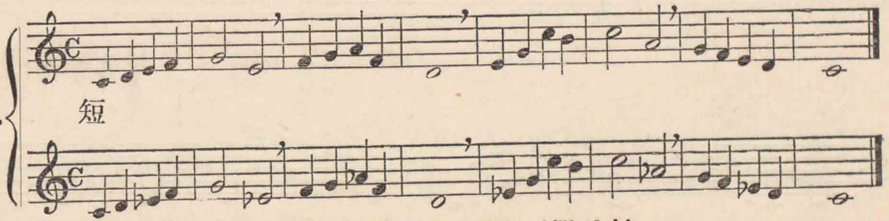
31.



長短兩音階比較

長

32.

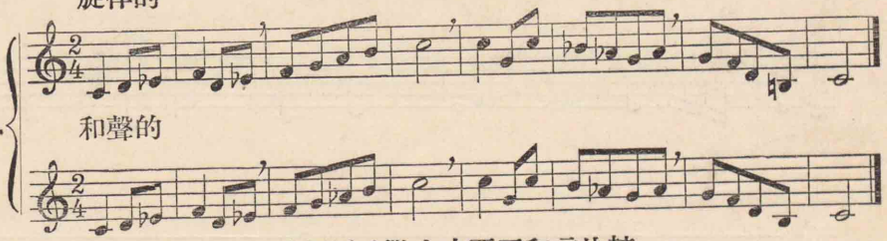


短

旋律的及和聲的兩短音階比較

旋律的

33.

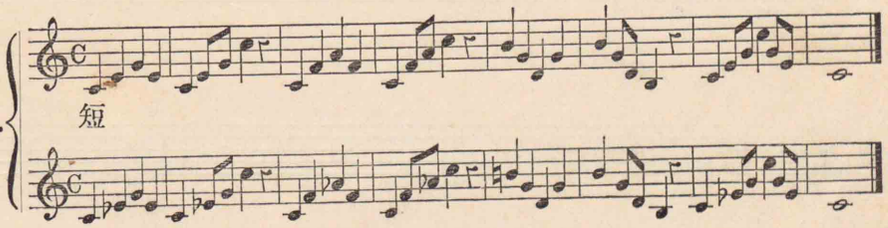


和聲的

長短兩音階中主要三和音比較

長

34.



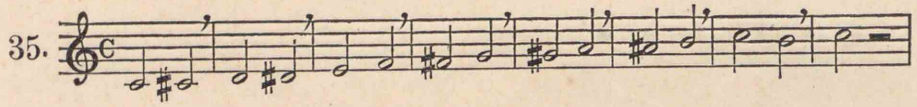
短

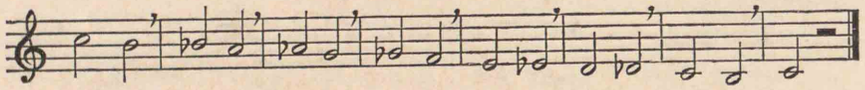


## 半　音　階

ハ♯ハ ニ♯ニ ホ ヘ♯ヘ ト♯ト イ♯イ ロ ハ　ハ ロ♭ロ イ♭イ ト♭ト ヘ ホ♭ホ ニ♭ニ ハ
1 ト2 タ3 4 ヤ5 ツ6 ユ7 i　i 7 ネ6 モ5 エ4 3 メ2 ヘ1

35.





明治三十四年五月十一日印刷
明治三十四年五月十五日發行
明治四十一年三月二十日六刷

定價金六拾五錢

東京市神田區錦町三丁目廿一番地
編者　山田源一郎

東京市京橋區竹川町十三番地
發行者　白井直

東京市京橋區築地三丁目十一番地
印刷者　野村宗十郎

東京市京橋區竹川町十三番地
發行所　合資會社共益商社樂器店
（電話新橋五百二十九番
電話新橋四千八百八十番）

著作權所有

広島大学図書
0130449432